

IBが大学準備課程として優れている10の理由

高い学術レベルから思いやりの心まで・・・
ディプロマプログラム履修生が世界中の大学を魅了してやまない理由

1. IBは学びに幅と深さをもたらします

IB卒業生が優秀であることはよく知られています。イギリスの高等教育統計局（Higher Education Statistics Agency）による2011年の統計では、IB卒業生が「他の資格取得者に比べ、高等教育機関トップ20の大学に入学する傾向が強い」ことが示されています。6つの教科を学ぶことによって、生徒は在学中に自分の教科選択幅を狭めないため、進学大学の選択幅を広めることができます。しかもその際学術レベルで妥協すること無く選択することが可能になります。IBディプロマプログラムでは、高度レベルで3科目選択し、それぞれ240時間履修します。さらに、第二言語の学習により、高校から大学へ発展的に高い成績に結びつけていくことができます。

2. IB卒業生は単なる結果以上のものを大切にします

創造性・活動・奉仕（CAS）は、ディプロマプログラムにおいて必須であり、具体的な経験を通して知識を習得する経験学習です。CAS活動の例としては、アフリカで新しい家を建てることから、地域のコミュニティ新聞を発行することまで、さまざまな活動が考えられます。CASは、世界に対する視点や自らの活動を計画する動機付けの機会を生徒に与え、大学入学審査においてはIB卒業生を他とは違って際立たせるものともなっています。マギル大学（カナダ）に在学中のIB卒業生グレゴリー＝フランソワ・レガルトは次のように語っています。「始めは[CAS]を苦痛に感じる人もいますが、大抵の人は必須とされる150時間以上行っています。」

3. IBは大学に向けた準備を整え、自立した学習者を輩出します

すべてのディプロマプログラム卒業生は、課題論文（自主的な調査と卓越した管理能力を必要とする4,000ワード以内の論文）を書き上げています。2011年に行われたカーディフ大学（英国）入学審査課による調査では、課題論文の認知的、リサーチ、ライティング、コミュニケーションの各技能分野で大きな役割を果たしていることを高く評価しています。デイビッド・コンリー博士（オレゴン大学教育学部教育方策とリーダーシップ教授、教育政策向上センター設立者）によると、IBは、アメリカにおいて大学進学準備として求められる「分析的思考とリサーチ技能の基準を上回っています。」課題論文の多くは、生徒が分析技能を示すために入学審査面接時に提示する場合があります。SRIインターナショナルの調査では、アメリカの大学に4年から6年間在籍した後のIB卒業生の卒業率が国全体の平均より高いことが判明した理由として、こうした大学に向けた準備の充実度が挙げられています。

4. IBは真の国際資格です

重大なグローバル課題には、グローバルな解決策が求められます。ディプロマプログラムは、より良い未来を構築するため、国際的視野を持ちつつ、地域アイデンティティとナショナルアイデンティティとのバランスを保つことを目指しています。生徒は、様々な背景を持つ仲間とコミュニケーションをとる手助けとなるよう第二言語を学ぶ一方で、多様な文化的観点から世界を見ることを学びます。ロバート・ハリソン（IBカリキュラム一貫性マネージャー）は次のように説明しています。「他のIBプログラムと同様、ディプロマプログラムは、生徒が共通の人間性と地球に対する共有の責任を認識し、国際的視野を持つ若者になることを目指しています。」また、「世界中のIB校は、カリキュラムを通して生徒が地域的、世界的な重要課題について探求、活動、省察に取り組む手助けをします。」だからこそ、この資格は、世界中のどのような地域にも進学が可能であり、国際的な基準とされているのです。

5. 大学はIBを入学審査に活用し、相応な大学単位として認定しています

IB公式ホームページ（www.ibo.org/recognition）上の様々な資料を含め、認証推進に向けた積極的な取り組みを受けて、入学審査の際にディプロマプログラムを活用している高等教育機関の数は、2011年では21パーセント増加しています。また、IB履修生は、名門大学への進学において優位に立っています。米国では、IB卒業生は、ハーバード、プリンストン、イエール、スタンフォードを含むアメリカのもっとも権威ある10大学に合格する傾向が通常より21.4パーセント高いことがわかっています。

6. IBは分析的思考を育成します

生徒は、情報源を分析し、一つの教科を他の教科に結びつけ、一般的な見解に疑問を持つことによって、実際の出来事を越えて物事を見ることを学びます。知的好奇心と論理構成能力は、IB教育における主な知的財産の一つです。シカゴのディプロマプログラム生に対する2012年の調査では、特に分析的ライティングに関連して確固としたアカデミック技能が見られました。ハワード・ガードナー教授などの著名な思想家は、省察や分析する能力は21世紀において効果的に学習しようとする者にとって不可欠であると強調しています。

7. 時間管理をあらためて学ぶ必要はありません

IBで体得した高レベルで自立した学習を通して、大学で学ぶ際にはさらに重要となってくる管理能力がすでに養成されています。確固たる学習習慣を身につけていれば、高等教育においてしっかりと取り組む学生に成長していきます。シカゴのディプロマプログラム生徒に対する2012年の調査では、IB生は課題のための時間を確保する必要があるときは友達と出かけることを我慢することができることがわかっています。

8. 試験技能を越えたものを評価します

ディプロマプログラム評価は総括的評価であり、生徒ができないことや何を学んでいないかではなく、何を学び、そして、何ができるかに焦点を置き、プログラムの2年間を通して評価します。試験レベルは、高度であり、高水準の証拠に裏打ちされるもので、規定の規準に準拠して学習成果を評価します。ディプロマプログラムは、30年以上にわたってぶれることなく、成績のかさ上げなどの調整はせず、学問における優秀さを示す国際的に一貫性のある基準尺度を保持しています。IB成績は、生徒の能力の実態を表すと同時に、入学審査過程において大学が的確に審査する手助けするものでもあります。

9. 教科は単独で教えられるものではありません

ディプロマプログラムと他の一般のカリキュラムとの主な違いの一つは知の理論（TOK）であり、これによって教科間の結びつきを作り、単に知識を蓄えるというより、分析的に考え、効果的な学習者となるための必要な技能を獲得するよう生徒を導きます。また、TOKをはじめとして、総合的な広がりを持たせています。IB校の教師は、学際的な授業を計画します。教科間の結びつきを重視し、大学レベルであまり細分化されていない領域で学ぶ準備という意味で生徒をサポートしています。

10. そして、さらに10の理由

IB学習者像はディプロマプログラムの基盤として推進する10の資質を提示しています。「心を開く人」から「バランスの取れた人」までの学習者像の示す資質をもとに、変貌の激しい世界に深く根付いた国際教育の枠組みを提示しています。